

平成27年度 第2回山陽小野田市公民館運営審議会 議事録

- 日 時 平成28年3月24日(木) 10時～11時30分
- 場 所 厚狭地区複合施設 2階 第2研修室AB
- 出席者
 - ・運営審議会委員14名
岡本会長 水田委員 吉川委員 大本委員 平野委員 中務委員 藤田委員
高橋委員 大森委員 千々松委員 嶋田委員 石川委員 松岡委員 森本委員
 - ・事務局19名
江澤教育長 今本教育部長 和西中央公民館長 下瀬学校教育課主幹
臼井社会教育課主査 松田社会教育主事 松浦CSコンダクター
西村社会教育係長 山口中央公民館主事 増本社会教育課主事
木原赤崎公民館長 藤村須恵公民館長 岡田小野田公民館長
末富高泊公民館長 山下有帆公民館長 大田厚狭公民館長
能勢出合公民館長 小野山厚陽公民館長 柿並厚陽公民館主事
- 欠席者
平中委員 折口本山公民館長 岡村高千帆公民館長 筑紫殖生公民館長
- 審議会の成立
委員15名中14名出席 運営審議会規則第3条第3項により成立

臼井社会教育課主査

委員の皆様には、公私ともご多用の中、お集まりいただきましてありがとうございます。本日の司会進行を務めさせていただきます、臼井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず先に、資料の確認をしていただきたいと思います。お手元に、次第、(資料1)各公民館事業実施計画書、(資料2)学校との連携について、それから「次世代の学校・地域」創生プラン、2月1日広報の市長コラムの両面刷りのもの、これらに不足はございませんか。

それでは、平成27年度第2回山陽小野田市公民館運営審議会を開催したいと思います。まず、江澤教育長がご挨拶を申し上げます。

江澤教育長

皆さん、おはようございます。この新しい複合施設ですが、初めて来られた方もいらっしゃるかもしれません。古いものも大切にしなければなりません、建

物の色々な設計と言いますか、やはり新しいものはいいなあという感じでございます。この仕切りを使った多目的な会議室が当施設にはいくつかございますが、公民館や図書館、地域の方々の使い勝手の良いように、これから改善されていくものと思います。そういう時にもやはり、公民館の運営審議会というものはリーダーシップを持ち、運営上の色々なことを協議していくところですから、非常に重要になってくるわけです。

さて、今回の公民館運営審議会は、平成28年度の色々な計画についてご審議していただいて、ご助言を願うものでございます。私からは、今、大きく変わっていますこの「次世代の学校・地域」創生プラン（馳プラン）という資料、その裏の2月1日号の広報「市長から市民のみなさんへ」というところでも、私が色々とお話したことを取り上げていただいております。

表に戻っていただいて、これがこの1～2年の間に急激に変わっているもので、非常に重要となっております。左側は教員の改革、真ん中は学校の改革、その右側ですが、これが地域からの学校改革、地域創生とあります。地域というのは小学校区や中学校区くらいの小さな規模を指していると思いますが、その創生ということです。「子どもを育てるということは、地域を育てる、地域の創生と同じことである。」という考え方でこの計画が立てられているわけです。本市では、これと似たような形の地域協育ネットというものがすでにありますから、まだ設置はされておきませんが、そこに地域学校協働本部というものを設置するという体制になってくるわけでございます。今までの地域協育ネットというのは、学校を支援するという格好のものでしたが、これは地域創生も担っているわけです。保護者や地域住民、企業、NPO、このような人たちが集まって一つのネットを作ってやっていくというのが、学校を核とした地域の創生、「地域学校協働本部」なのですが、この協働本部の設置が想定されているのは公民館でございます。もちろん学校自体に置くというものでも良いわけですが、学校は今度コミュニティスクールになります。導入に伴い、学校にはCSのそういった組織が設置されるのですが、この地域学校協働本部は「地域の創生」というものがありますから、いま考えられているのは公民館に置く、公民館の主要な柱の一つになっていくということでございます。

地域の創生、それは学校と切り離してはあり得ない。子どもの成長を支え、子どもを創っていく。それは何故かと言うと、少子化になってくると分かるのですが、未来の地域を守るのは若い世代以外におりません。我々があと50年生きることは無理でしょう。若い人が地域を創っていく、つなげていくわけで、そういう若い人をどのように支えていくか、成長を支え、教育をしていくかということが地域を作ることそのものであるという認識でございます。だから地域の創生には学校を組み込まなくては行けないと、地域学校協働本部として公民館に設

置されてくるわけでございます。これまでの社会教育と学校教育の垣根を無くさなければいけないということは、少子化の今になってみると本当によく分かりますと思います。

本市では、この4月からの新しいプロジェクトとして、市長から市民のみなさんへのところで「地域力・学校力向上プロジェクトをはじめます」と言っていますが、正確には「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト」と教育委員会で呼んでおります。家庭力を地域学校協働本部の中で伸ばしていく。これまで、地域がそれぞれの家庭に行くことは難しく、個々の家庭は尊重しなければならないため実現できなかったことでした。しかし、それではなかなか難しいという状況に今なっております。学校も入りにくいのは同じですが、それでも近年、色々な形で家庭に入っていくと聞いております。先生方はすごいストレスを感じて大変なのですが、そういう中でもやっぱり地域の方も家庭に入っていくと言いますか、何か助言や支えというものをしていかななくてはいけない時代になっているということでございます。地域の方による少しの支えや助言が、学校を助け、家庭も良い方向に向かったという事例がたくさんございます。そういった中で、やはり公民館というのは母体になっていくと思います。今後、地域力・学校力・家庭力の向上、これを公民館でコントロールするようになるという認識をしております。

公民館の中心的な立場である皆様方も、そのあたりの事を考えていただきながら、運営にあたっていただければと思います。それが次の時代を担う子ども、すなわち地域の活性化・創生に結びついていくものであらうと考えております。なかなか難しい課題ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

臼井社会教育課主査

続きまして、岡本会長よりご挨拶を賜りたいと存じます。

岡本会長

おはようございます。ご紹介いただきました岡本でございます。教育長からお話がありましたように、私もここを初めて見学させていただきました。立派な建物で、これは厚狭地区の拠点になるのではという印象を受けました。研修室も結構なスペースを取られておりますし、地域の皆さんが集まりやすいように設計されているなあと思いました。

地方創生という言葉が出て数年になるかと思いますが、今は学校だけではないですね。人口減少がいかに大きな変革を起こしているかということを感じることがあります。そのような諸問題も、県内地域によって全く違うということがございます。学校や公民館を中心とした地域の拠点ですが、地域住民にとっても頑張っていかなければならない、あるいはより良い方向に持っていく必

要があるというのを痛切に感じます。特に公民館を中心とした拠点づくりということなのですが、地域には色々な活動をされている方が数多くいらっしゃいます。私どももこの会だけでは無しに、色々な方に活動する機会を与え、意見を聞く場を持つ必要があると思います。それによって地域の活性化につながると思います。

それともう一つは今、公民館もそうですが、学校や地域の色々なところでイベントがございます。私も随分と参加しておりますけれども、どこの地域に行ってもイベントが年々盛んになってきていると感じています。地域に住みながら、これが人口の減少というものを食い止めているような気がしてなりません。こういうことは、ずっと続けていく必要があると思います。イベントを回ってみますと、この行事は地域にとっては大変なことですから絶対やめませんという声をよく聞きます。人がいないからやめてしまいましたという話ではなくなってきています。数年前はそういう話も聞きましたけれども、最近は聞きません。現在住んでおられる方々が中心になって、できる限りその地域を守っていかねばという雰囲気になってきているのではないかと思います。この学校との連携、馳プランについては、できるだけ早い時期に地域も含めて活性化しなければ、なかなかうまくいかないのではないかと思います。

今日は運営審議会ということでございますが、ご意見をどんどん出していただきまして、スムーズな進行にご協力をお願いいたします。

石川委員

審議する前にちょっと教育長さんのお話の中でこの馳プランを見ますと、要法改正：地方教育行政法ということで、法改正が今後行われるのではないかと感じがしております。学校教育法と社会教育法、この二つの大きな柱がありまして、社会教育法では学校教育以外の全ての教育活動が社会教育法ということで区切りがちゃんとついているわけです。学校現場の先生は、学校教育法の中でずっと過ごされている上でそういう方向性を出されておると思うんですけれども、このプランだけで先生方の意識改革が出来るのでしょうか。

江澤教育長

先生方の持ち分と言いますか、すべきこと、これはやはり明確なわけです。例えば朝、子どもたちが通学する時、そこはどこの責任かと言いますと、諸外国はほとんど校門までが親の責任だと言われております。しかし日本では、通学路は学校の管理下であると言われております。学校の管理下と言われても、先生方がそこをずっとついて行くというのは不可能で、だからその中で先生の範囲、学校が安全のようにアレンジするという程度の曖昧な状況になっているわけです。

ですから、学校教育においては学校で協力するという範疇に限られるわけでございまして、地域の色々なことの中で、では学校の先生は出てくるのかこないのか、地域の色々なところに出てきて欲しいという気持ちは分かりますが、先生は学校内で子どもを教育するというのを遅くまで大変な状況なんです。世界の中でも学校の先生の仕事時間が一番長いのは日本ですし、そのあたりは皆様方も是非ご理解願いたいと思います。しかし、この馳プランの中では、理念は「学校も地域に出て行こう。そして、このように垣根を無くしていこう。」というものです。お互いの枠組みを理解しながら、今まで縦割りだったところの垣根を緩やかに、そしてお互いに連携し協働していくということをしないと、もうこの国はやっていけませんよという状況なんです。だから、こういう社会教育法の改正も必要だということで、状況を理解していただきながらその必要性を十分に感じ、どうすればいいのかというところに向かっている、我々は立っているということでございます。先ほどもありましたように、人口減少という社会全ての領域に影響を及ぼす大きな要因に直面しているというわけでございます。そのようにご理解していただき、きちんと決まっていらない、理念的なものでしかないと思われるかもしれませんが、考え方も修正していきながら、我々はそれに立ち向かっていかなければならないという状況だと思います。

臼井社会教育課主査

それでは議事に入ります前に、一点ほど確認事項がございます。公民館運営審議会規則に基づく本会議の成立でございます。本日は14名の委員にご出席いただきましたので、成立していることをご報告いたします。同じく規則第3条第2項により、以後は議事の進行を岡本会長にお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

岡本会長

それでは早速議事に入りたいと思っております。平成28年度各公民館事業実施計画について、事務局よろしく願いいたします。

和西社会教育課長

来年度、各館での事業計画を資料1にまとめさせていただいておるところです。公民館には必要課題と要求課題と二つありまして、要求課題というのは簡単に言えば趣味的講座等を指すものがございますが、やはり、「公民館というのは、地域からの課題を解決するために何をしなければいけないか」という必要課題というものを意識して講座に取り組むというのがあるかとは思っています。今日はそのあたりを中心に、各館、館長の方から簡単にですが、来年度について計画等

をご説明させていただければと思います。本山・高千帆・埴生の館長は欠席のため、残りの館の館長からいきたいと思います。

木原赤崎公民館長

赤崎校区は海と竜王山に面しております、そういうことから地域の住民に防災教育を周知しようということで計画書にはまだ載せておりませんが、年に二回、公民館で防災講座をやることにしております。それと、地域住民とのふれあい事業、これで小中学生を地域の行事に引き込んで、地域とのふれあい・絆を深めようと思っております。

藤村須恵公民館長

28年度の事業は概ね今年度と同様でございますけれども、去年、和太鼓入門として小学校の児童ならびにその保護者を集め、親子で太鼓を打とうじゃないか、昔の楽器をやってみようじゃないかということで須恵太鼓保存会の皆さんにご無理をいってやりましたところ、結構人気がございましたので引き続きやってみようという考えでおります。

岡田小野田公民館長

重点施策の中の「地域の要望を取り入れて、今年度新しい講座を計画しました。」というのは、将棋教室でございます。以前、デイサービスの方から「山陽小野田市には将棋のクラブが無いので、どなたかいないだろうか。」とお探しになっておりましたので、一箇所ですという地域に貢献できるようなクラブがあればいいなということもあり、何人の参加があるかは分かりませんが、今回、将棋の講座を開く計画をしてみました。

末富高泊公民館長

重点施策として、学校と地域の連携を深めるためにも公民館講座・クラブの活用を更に進めるというものでございます。高泊教養講座の中の5番目のところに剪定講座というものがあります。10月27日を予定としておりますが、これは地域の方にもご協力を願うのですが、特に公民館クラブの方にお声かけして、高泊小学校のイブキの剪定を昨年もしましたが、来年度もやっていくということにしております。そして、高泊小学校の年度末にあります「子どもたちの作品展」に、公民館教室であります切りえ教室、絵手紙クラブの作品展示も合わせて行うということにしております。

続きまして重点施策の2で、地元の歴史・ことば・企業を通じてふるさと高泊のことを深く知るということで、高泊教養講座では1番：山口県の伝統、2番：

地元をもっとしろう、6番：地元をもっと知ろう 2 ということをしています。中でも7番：しっちゃん？高泊の歴史 というのは通常は公民館で講座を開いておりますが、来年度は高泊小学校で6年生も一緒に、地域の郷土史勉強会の方のご協力も得まして、小学校の中で講座を開こうというふうに計画をしております。

山下有帆公民館長

28年度につきましては、概ね今年度と同様のものというふうにしております。1点ほど新規講座といたしましては料理教室ですけれども、有帆公民館には男性料理教室しかやっておりましたが、これは土曜料理教室ということで内容は中華料理ですけれども新たに開催するようにいたしました。土曜料理という名称をつけましたのは、老若男女と言いますか、若い方にも是非参加していただきたいということで、土曜日に開催することにしたからです。

それと歴史探訪についてですが、従来の有帆地区歴史探訪を三年間やりましたけれども、これを終えましたので、28年度は山陽地区を中心にして歴史を学んでいきたいと思っております。

来年度の有帆小学校の新一年生、大変少なくなってきました。そういった関係もありまして、親子のふれあいを増やしたいと考えております。それで今年度もやったんですけれども、凧作り、これはどんど焼きが始まる前に凧を親子で作ってもらいまして、それをどんど焼きの時にあげております。それから今、親子でソバ打ちが是非出来たらいいなということで計画をいたしております。

大田厚狭公民館長

主催講座につきましては、今年も順調に続いてまいりました。それからその他のところでスポーツ行事・ふれあい行事、これにつきましても順調に推移してまいりました。1月25日までは旧厚狭公民館にて活動しており、2月8日以降この新施設に移行しまして、順調に全ての講座をサークル含めまして実施しております。

厚狭公民館まつりとふれあい納涼祭ですけれども、これにつきましては、この新施設で行うようになると思います。また、厚狭公民館まつりについては、今、図書館も一緒にやろうという話が出ておりますので、今後十分な協議を重ねまして行っていきたいと思っております。

能勢出合公民館長

出合公民館では、平成27年度の公民館の目標として生涯学習の場づくり、それからコミュニティ・つどい・ふれあいの場作り、地域づくりの拠点館づくりと

いう三つの目標を掲げました。28年度についても、この三つの目標を推進していきたいと考えております。

重点施策にも挙げておりますが、生涯学習の場づくりに関係することです。その中で一番は、であい塾というものでございます。であい塾は、一般教養から健康づくりまで幅広く学ぶ講座でございますけれども、出合地区の皆さんは特に健康志向が強いようでございますので、28年度は健康に関わる講座というものを新たに設けまして、教養的なものと健康的なもの大きく分けるようにいたしました。また、厚狭地区は水害等の災害も多く、地域の防災士さんも非常に積極的に活動されております。そこで、そういった地域の人材等を育てるところから、地域の防災士を活用した防災講座を来年度は10回ほど持つことにしております。

当館では、27年度に公民館評価を実施いたしました。利用者あるいは地域の方にアンケートを行い、データの分析をいたしました。利用状況等も見まして、出合公民館の場合、年齢の高い方の利用は非常に多いけれども、若年層、特に子どもとかですね、若いお父さんお母さん方、このあたりの活用が非常に少ないということが分かりました。来年度は特に子育て講座とか子ども教室、このへんも充実させ、若い方から高齢者の方に至るまで、幅広く公民館を利用させていただくとともに、地域づくりをやっていきたいということを考えております。

小野山厚陽公民館長

講座の充実といたしまして、地域の方達の希望される講座を実施していきたいというふうに思っております。その内容として、19ページの円熟者学級からしめ縄づくりまでを計画しておるところです。

次に、子どもたちが集える公民館づくりを目指し、地域コーディネーターとの調整・強化に努めたいということから、20ページに子どもの居場所づくりということで、あそびの城厚陽、夏休みの工作教室を二つ設ける予定としております。

最後に、ふるさとづくり協議会や地域の関係団体との連携を強化しながら、事業の推進に努めてまいりたいというふうに思っております。

岡本会長

今、各公民館の方から主だった事業についてお話がありましたが、何か意見ございますか。

石川委員

今、公民館事業についてですね、年々充実してやられておりますし、ますます公民館長さんの重責、コミュニティスクールの中心となる公民館ということで、

公民館長さんの責任の重さは大変なものであろうと思います。公民館長さんに対して待遇改善とか、そこらへんは考えてらっしゃるのかどうか。さらに、これから小中学校と公民館で交流事業が始まったとき、子どもたちに万が一事故が起こった場合に、誰がどのように補償し責任を持つのかということもある程度明確にしておかないと、公民館長は困られると思いますが具体的な対応はどうでしょうか。特に赤崎公民館地域では、先進的に色々なことに着手されていると思うんですけども、そういったときにあってはならないけれども事故があった場合、館長さんが安心して活動ができるような体制づくりができていますのかどうでしょうか。

法的にフォローできないものであれば、公民館事業やコミュニティスクールの対象事業についてどのように対応するのか、ということも明確にしておかなければ、館長はこれからのコミュニティスクールの実践について非常に不安だと思います。そのあたりは分かりますか。

和西社会教育課長

公民館行事と言いますか、例えば、まつりに小中学生が参加した場合の事故等について委員さんから質問があったかと思いますが、今、コミュニティスクールの範囲、学校運営協議会の活動の中で事故が起きているというふうに判断できますので、学校活動の一つとして位置づけられるものと思います。子どもたちはフリーで普段の土日と同じような過ごし方で参加するという形ではありませんので、そのあたりの問題はないかと思います。

それから、活動に参加されているのは子どもだけではなく、地域の方々もいらっしゃいます。それについては、市民活動の保険というようなもので対応できるかと思います。

1点目の待遇についてですが、昨年もこの会議の場で同じようなご質問をいただきましたが、昨年と同じような回答しかできませんが、改善について引き続き働きかけていきたいと考えておるところです。

吉川委員

高泊公民館ですが、総合型スポーツクラブ すげえちゃ・高泊、活発に活動なさっておると聞いていますが、計画書の中にはほとんど共催というような形で団体名が出てこないのですが。これは全く別に活動をやっているということなのか、もしくは何か連携等があるのでしょうか。

末富高泊公民館長

すげえちゃ・高泊は、民間の営利団体というふうに公民館では考えております

ので、現在のところ、共同でいろんなことを開催するというところまでは考えてございません。

和西社会教育課長

少し補足させていただきますが、市内にはすげえちゃ・高泊と出合いちょうクラブの2つほど立ち上がっております。生涯スポーツという観点から、地域のスポーツ活動をそこで全て引き受けて進めていこうという民間組織になります。立ち上げ当初は若干補助があったかと思うのですが、今はその補助が無くなりまして、それぞれの会費収入等で運営していきましようということになっておるところです。全国的にもかなり広がりを見せておるところですが、市内については高泊と出合ということなのです。

石川委員

私たちが感じておることかどうか分かりませんが、CSについてですね、小学校と中学校の考え方、もっと具体的に言いますと、小学校は校長・教頭先生をはじめ、先生方のコミュニティスクールに関する認識が大変深いと私は感じているんですけれども、中学校になった場合ですね、現場の先生と管理職の校長・教頭先生では、この思いに対して随分と差異があるのではなかろうかと。証明するものがなくて申し訳ないのですが、つくづく感じとしてそう思っています。ということは、現場の先生が子どもに対して、コミュニティスクールとしての感性や感覚、その方向性を見出しておかないと、子どもたちには伝わらないと思います。もちろん親にも伝わらないと思います。ただ、小学校の場合はそのあたりが非常に出来ている、コミュニティそのものが出来ているのか分かりませんが、感じているのは私だけではないと思います。小学校の教育後援会長の藤田委員もいらっしゃいますが、全く同じような感じ方をしているのではないかと思いますけれど。

岡本会長

そのあたりの話は2番目の議事の中で行いましょう。私の方からですが、出合公民館の防災講座、年10回とほとんど毎月ということで非常に良いことだと思いますが、参加者はどのくらいでしょうか。参加がずっと継続してあるのでしょうか。

能勢出合公民館長

参加者でございますけれども、現在のところ、だいたい毎回5～6人程度の参加でございます。それがずっと続いておるという状況です。

岡本会長

分かりました。他にございませんでしょうか。無ければ今の28年度の各公民館事業計画についてはご了解いただけますか。

(はい) 委員了承

それでは、2番目の地域協育ネットと公民館の関わりについて、事務局お願いします。

和西社会教育課長

前回の公民館運営審議会で、コミュニティスクールをはじめ、皆様から多様なご意見をいただきました。今回から、前回と同じような進行ではなくて、ここに項目出しをして、実際にその公民館で、公民館を場所として活動されている場合もありますし、公民館から出て行って活動される場合もあります。そのようなあたりを整理して、一覧表でお示しさせていただいた後、またご意見をいただこうかなと思ひましてこのような資料をつけさせていただきました。

先ほど教育長からもお話がありましたが、支援から協働へということで、国が大きな方向転換をしておるところです。理念は理念としてあるのですが、実際の現場で、社会教育のフィールドと学校教育のフィールドで言うところの連携させ融合させていくのかというあたりについては、これからアイディア勝負になるのではないかと、それから、システムをしっかりと確立させていく必要があるのではないかと思います。システムの的には公民館を拠点に進めていくしかないかなと思っておるところで、まだ皆さんに具体的にお示しできないという状況ではありますが、次の教育振興計画、文科省が定める5年後ですが、そこまではこの地域学校協働本部については社会教育法の中で位置づけられるであろうというふうに思います。

先ほど石川委員の方からありましたけれども、コミュニティスクールの方で法改正、地方教育行政法の改正が要法改正のところにあります。これについては、全学校でコミュニティスクールを作る方向でいきなさいとの努力義務が法律の中で定められます。当初、文科省は必置で作りなさいという方向で法改正をしようとしていたのですが、そうではなくて努力目標ということになります。それから、下の社会教育法の法改正につきましては、地域学校協働本部というのを置きましようということで、これも努力義務になるのではないかと思います。そのような法改正をしつつ、5年の間でこの馳プランの右側の部分については進めていこうとなっています。

少し話がそれましたがこの馳プラン、実際、山口県はコミュニティスクールがこの4月に100%になりますので、そういった中で地域協育ネットとどう絡めて進めていくかということになるかと思われまます。馳プランについては、社会教育主事の松田の方から若干ご説明をさせていただいた後、各公民館からの資料について皆さんからご意見いただければと思います。

松田社会教育主事

失礼します。冒頭に教育長、そして今、和西課長の方からも話がありましたので手短にお話したいと思ひます。馳プランの一枚物を見ていただきますと、一番右側に地域からの学校改革・地域創生といったことで、真ん中あたりに地域学校協働本部と書いてあろうかと思ひます。その下の白の枠内、地域の人々が学校と連携・協働してというのが国の目標なわけです。

実は、学校を核とした地域づくりの推進につきまして、中教審の答申の方がより詳しく、この馳プランは比較的手短にまとめてありますので、できれば興味のある方は中教審の答申の方をご一読いただきたいなと思ひます。その中で、中教審の答申の11ページのところを紹介させていただきます。2つほどございます。

念頭に置いていただきたいということで、1つは、地域の未来を担う子どもの育成という観点でございます。お手元の紙で言ひますと、先ほども申しました地域の創生、その下に次代の郷土をつくる人材の育成、とございます。きちんとここに位置づけられております。では具体的にどうするのかといったところですが、子どもたちの地域への愛着や誇りとかをより育んで、そしていずれ地域の将来を担う、そういう人材の育成ということで今学校でやられておりますのは、例えば体験学習、すでに多くの皆さんや委員の皆様方のお力添えをいただいているところなんです、地域の中での色々な体験、先ほど防災とかの体験もありましたが、そういった話も聞いております。地域の方とのふれあいや交流会、こういふことでございます。あと、よく中学校で多いんですけども、キャリア教育という言葉聞いたことがある方もいらっしゃるかもしれません。これは職業教育などと昔は言われていましたが、最近では小学校でもですね、自分らしさを生かして誰かの役に立つ体験だとか、「僕は地域の町のお手伝いをして役に立ったんだ」そういうのを自己有用感と言うんですけども、そういったことが非常に重要になってくるわけです。

2点目、非常に当たり前のことを申ししますが、地域住民が学校を核とした連携・協働の取り組みに参画する、こういったことでございます。山陽小野田市のアドバンテージといたしましては、全ての小中学校にすでに学校支援のベースがあるといったことです。これは県内でもうちの市だけの特徴でございまして、課長の和西も申しましたがアイディア勝負になるという気がしております。言

い方を変えれば、地域性を生かすといったことをございます。そういったいろんな方が参画するような取り組みを進めていくということです。高齢者までも含めた一人ひとりの住民の活躍の場を創出することが、まちの活力づくりにつながるのかなと思います。また、子どもたちがそういった環境の中で育てられ、安心安全に暮らすといったことが、結果として安心安全なまちづくりにも寄与するのかなといったところをございます。

最後に、公民館の方に期待されていることをキーワードで申します。1つは「ネットワーク」、もうひとつは「コーディネート」です。

ネットワークというのは、日本語にしますと「つながりづくり」といったことになろうかと思ひます。公民館の講座については、先ほどの館長さん方のお話を聞いていますと、非常に人と人をつなぐような動きが出ておりまして、やはりこの3年で随分と前に進めていただいていると感じます。何故これを申しますかと言うと、具体的には家庭教育、これが一つのポイントになってくるわけです。実は今、家庭教育支援チームというものが本市にございまして、子育て講座等で若いお母さん方の話を聞くことが非常に多いです。するとですね、そのお母さん方にアンケートを取ってみますと、市全体のアンケートですが、子育てに不安があるといった方が64%です。そして、不安だけど相談できる人がいないという方が1%程度いらっしゃいます。ということは、学年に一人ぐらひはどうしようもなく悩まれている方がいるということになります。公民館によっては家庭教育の講座を組んでいただいているところもありますが、ここは是非今後の必要課題の一つとして意識していただけたらなと思ひます。

最後、キーワードの2つめですがコーディネートですね。地域のコーディネーターとしての公民館といったことを意識していただきたいなと思ひます。先ほどから申しておりますが、それぞれの方が人や団体のつながり、つなげていく、そういったことを意識していただくでありますとか、学校との連携について資料2などを見ますとですね、非常に館長さん方の意思が出ているようなそういった活動が非常に多いです。先ほどの館長さん方の言葉にも、ふれあいとか地域貢献とか伝統文化とか連携とか、そういったものに随分と館長さん方の意識が出ておりまして、そうしたことで結局、地域に雰囲気とかムードができていくんじゃないか、そういう気運が高まることがまずは大切だろうと思ひております。そして、コーディネートをする上で非常に大切なのは、やはりマネジメントの力だろうかなと思ひます。学校をマネジメントしているのは校長先生方ですけれども、公民館長さん方は地域のマネジメントを、公民館に関わる運営協議会の皆さんにもぜひお願いしたいなと思ひます。また、特別なことや全く新しいことを今からやるというわけではなく、今の活動を更に進めていけば、そのうち地域学校協働本部になっていくんじゃないかと私は思ひております。平成30年ですけ

れども、おそらく国の第三期教育振興基本計画が出てきますが、その目玉としてこの地域学校協働本部というのが大きく公に出てくると思いますので、それまでに徐々に進めていっていただけたらなと感じております。以上です。

和西社会教育課長

つなげるとコーディネート、もう一つあるとすれば、続けるということだと思います。一過性に終わるのではなく、その活動が続くことで協働という意識が芽生えてくるのかなというふうに思います。ここからは意見交換いただくのですが、先ほど石川委員さんから学校の先生の意識というお話がありました。私自身、県内の研修に行くことが多く、学校の先生も一緒の場で研修するのですが、一昨年と今年を比べてみると、若い先生がどんどんそういう研修に入ってきて、中心となって事例発表等を行われているように思います。山口県は教育庁の方でも先生の意識改革ということに本当に一生懸命取り組まれていますし、それに応える先生方がすごくいま増えてきているということを感じておるところです。

石川委員

それですね、学校の先生は子どもたちの家庭から見たときは聖職者というイメージがあると思うんですが、先生そのものは個人的には労働者であると思います。二つの顔が先生にはあるから、そのあたりのバランスの取り方が難しいと。教育委員会として先生方にどのように対応をしていくのでしょうか。やはり先生方には聖職者の顔と家庭の顔、その二つの顔があるということのをベースに置いておかななくてはならないと思います。

先ほど言われましたが、家庭教育が随分と欠落しておるというようなことですが、それは家族制度が大きな要因だと思います。そのあたりをどのようにこれから補充していく、補完していくのかということが大きな問題であろうと思います。もちろん戦後から今までの経済的な発展は、核家族制度や持ち家制度も関係してきているわけですが、残念ながらそのことによって家族制度そのものの崩壊が始まって、それが教育の問題にも影響しているという大きな要因であろうと思います。

江澤教育長

先ほども言いましたように、学校の先生方に地域のお祭りにも必ず出てくださいというようなことは言いません。先生方には学校で子どもをきちんと教育してもらい、これに全力を傾けてもらわないといけないわけです。非常に大変な中で、もちろん家庭もございます。地域のお祭りに出ていただいた方が色んな面で良いですし、地域の人が頑張られている中に先生もちゃんと顔を出して感謝

の意を表すという意味でも参加してもらった方が良いという面は多々あるわけですが、そのところは皆様方にも是非ご理解願いたいと思います。今の石川委員のご発言は、そのところを十分配慮してあげて欲しいという趣旨のことだと思いますので、こちらとしましても大変ありがたいと思います。地域の皆様にはそのあたりをご理解いただいて、地域の学校支援活動または学校との協働活動等をしていただくということだろうと思います。

それでは、先生の意識、小学校と中学校の意識についてですが、そのあたりを実際にされているCSコンダクターの方をお願いしたいと思います。

松浦CSコンダクター

CSコンダクターの松浦と申します。先ほど石川委員さんの言われたことは確かにあると思います。小学校の先生の方が実際にですね、学習支援等で例えばプールの授業の監視をお願いしたり、読み聞かせがあったり、低学年の算数の授業、習字とかミシンの指導とか、より身近に色々な地域の方のボランティア活動を感じておられて、子どもと向き合う時間が確実に増えているというふうな実感を持っておられると思います。「やって良かったな、非常にありがたいな」という意見を現場でよく聞きます。中学校の先生はですね、なかなかそこまで届きません。やはり学習支援というところまでは厳しい状況です。部活動支援や環境整備等が主でしょうか。しかし、中学校もこのコミュニティスクールが立ち上がったことによって、例えば受験の面接指導のお手伝いとか、それから先ほどのミシンとか、それでも少しずつ入っていただいております。ですから、小学校の先生方がより身近に感じておられるのは確実にございます。中学校の先生はこれからでしょう。

いずれにしても、山陽小野田市はコミュニティスクールが立ち上がってまだ一年、それからまだ立ち上がっていない学校もございますので、長いスパンで3年、4年、5年とですね、じわりじわりとやって良かったなというメリット感を感じられるのに少し時間がかかるかなというふうに思っておりますし、まだ地域協育ネットとこのコミュニティスクールの違いが何なのかというところも実は分かっておられない先生方がたくさんおられますので、微力ながら現在各学校を私の方で回らせていただいて、説明をしておるところでございます。もう少し待っていただければ、山陽小野田市もコミュニティスクールのメリット感、しかし、メリット感だけではなくて、先ほども言いましたように連携協働ですから、共にやりましょうというパートナーシップを持たなければなりませんから、学校ばかりが支援していただくのではなくて、地域と何ができるかということもこれからも考えていかなければならないというふうに私は思っております。

岡本会長

今、色々とお話を聞かせていただきましたが、どなたかご意見はございますか。聞いてみたいということはありませんか。千々松さん、いかがですか。

千々松委員

はい。肝心なことをお聞きして何ですけれども、今、特段、コミュニティスクールという言葉聞いておりますけれども、うちの学校支援の会議ではスクールコミュニティという言葉が言われておるんですよ。これはどういうことなのかということが一つめです。それからもう一つですが、いま我々や先生が言ったように、お手伝いするところは限られると思うんです。そんなにレパートリーが増えるとは思っていません。厚陽は小学校と中学校が一緒ですから、一緒のことをやっていますけれど、他の校区では、小学校と中学校で別のことを学校支援の中でやられておるのではないかと思います。中学校なんかはですね、もう高等教育の方になられますから、学習支援として教える部分も変わるのではないかと思いますよね。小学校に比べ、中学校にはなかなか入りにくいのではないかと。そして、活動日の問題もあろうかと思います。平日の読み聞かせ等ならば期間を決めて可能ですが、今は小学校もクラブ活動があります。放課後のクラブ活動を除けば、やるとしたら土日になるんですよ。土日でもクラブ活動が入ると参加する人間というのが、公民館で色々やっても限定されると思うんです。

このような問題がある程度やっていかないと、全部が全部、なかなか一般家庭にまで我々が入って教育するというのはとてもではないけども難しいのではないかと思います。できる範囲内というのがある程度限られてくるんじゃないでしょうか。その中で今の支援事業をやっていくことが、我々の仕事じゃないかと思っていますけども。できるものはやらなければいけません。それをそういうふうにやられると私はなかなか難しいんじゃないかと思っています。

学校の先生の理解についてですが、校長先生や教頭先生のような管理職の方はご理解されていると思うんですが、一般の方はまだまだとてもじゃないけども雲泥の差があるんじゃないかと感じています。

江澤教育長

はい。おっしゃることはよく分かります。今の問題で、学校に支援することについて、中学校なんかはもう難しいし大変じゃないのかという点ですが、そこが先ほどから課長も言っているアイデア勝負になるだろうというところです。例えば、先ほど高泊の館長さんが話された高泊の歴史、これは地域の子どもに誇りを持たせるということですよ。「高泊の何かいいところあるの」と聞かれたら、子どもが皆つらつらといくつか答えられると、そういう子どもをつくってい

くということだと思のですが、それを学校で6年生と地域のそれを習いたい、知りたいという方と協働ですと。そうすると、教室に地域の人と6年生がざっと並んでそこで講座をするわけですね。現場では、学校が荒れているというようなことが本当に一番つらいことなのです。荒れているというのは、授業中伏せたり、声を出したりして、授業の進行を妨げる、もし、そういうところに地域の人と一緒に授業とは別の何か講座をすることができたら、それは子どもたちにとっても新鮮だし、そういう行動に何らかのきっかけを与えることになるかもしれません。かなりの可能性を秘めている活動だと私は思います。

家庭に入るのは無理ということでしたが、入るといよりはその関わり方だと思います。何かをする時に、その家庭の親子で参加すると楽しいなというようなものがもしあったとして、そこで親子が参加しているという状況を作ることが出来たら、その活動の中で家庭のことが透けて見えてくると思うんです。そこで何か助言をしたり、悩みごとを聞いてあげたり、そういうこともできるんじゃないかなど。あなたの家庭の子はこうですと、直接家庭に入るという意味ではありません。それはおっしゃるように、それはなかなか難しいと思うんです。間接的にということ、何かこう一緒に引っ張り出して親子で楽しい経験をさせる中で、そういうことがぼろぼろ出てきて何か助言を与えられたらなど。ですから、そのところがアイデア勝負ということで、これから教育委員会の方もこういう例がありますよというものを出しながら、主体である皆様方にいろいろ考えていただけたら、ご助言いただけたらなどと思っています。

石川委員

私は大変危機感を持っているんです。というのは、5年先、10年先、自治体そのものも成り立っていくか大変な不安があるわけです。今いらっしゃる現状のお世話されておる方というのは、何とか一生懸命やられてまだ自治会組織も崩壊させずにですね、何とか持ちこたえておられる、努力によって持ちこたえていらっしゃると思うんですけれども、これが市内でも都市化するところはどんどんですね、連帯意識というかそういうものが非常に希薄になってきているのが現状です。ですから、あと5年先を考えた時、本当に今の自治会組織がキープできるかということも大いに危惧しておるところです。そのことに連動して、子どものことも地域連帯をやろうといった時に、学校の考え方は良いけれども、それを支える地域のベースが崩壊していれば机上の理論にしかならないわけですよ。そこらへんをもう少しアイデアという問題ではなく、ベースがどういうふうになっているかという方向性を見定めながら、このような地域連携を考えていかなければ絵に描いた餅になると思います。

江澤教育長

そのベースを作るにはどうすればいいのか、というひとつの回答がここにあるというわけでございます。ベースを作るには、若い人たちがその自治体活動とかそこに顔を出さないといけないわけです。学校では保護者が必ず顔を出されます。子ども会やそういうものを地域活動の中に含んでいく、小学校や中学校を卒業したPTAの方々を逃がさず、またこの地域活動の中に含めていく。そのあたりは親御さんたちが、小学校や中学校のその時々から一緒に地域活動の人たちの輪の中で活動し、顔を突き合わせていけば、だんだんスムーズになっていくかもしれません。そういう可能性を考えないと、本当にお年寄りだけの自治会組織のような状況になっていく、だからいろんな世代というかそこを含めていくためにはどういうふうにしたらいいかという政府の一つの考え方がここに出ているわけです。この表現の裏には、どういうふうにして地域の持続性、そこを持っていくかということがあるわけですから、今言われた危惧を解決する一つの方法が裏にあるというふうにご理解願いたいと思います。

石川委員

先ほどから、小学校と中学校の子どもたちを考えたときに、小学校というのは町内・自治会内に子ども会という組織があるんです。小学校を卒業するともう中学生はそれをまとめる立場というか、小学校の間だけは、子ども会という名のもとに連携が取れているんですよ。上部組織もありますし、市子連というものもあるでしょうけども。中学生の場合、学校では生徒会というものがありますが、地域において関わりできるような組織らしき組織がないのが実情です。

江澤教育長

もちろん子ども会もこの地域学校協働本部の中の重要な組織になります。そうすると、小学校の子どもを持つ保護者、中学校の子どももいるかもしれませんが、そういうお子さんが中学校に上がったとき、中学校では高千帆中学校のように「おやじの会」というものがある学校もありますが、この地域学校協働本部の活動の中でしっかりと逃がさないようにしていくということを考えていかなければならないのではないのでしょうか。子どもが中学校に行ったとき、中学校の子ども会が無くて、子どもに関する部会をこの地域学校協働本部の中にもし作ったとしたら、そこに小学校の子ども会や中学校の子どもたち、そして、中学校を卒業した高校生、青年会というようにずっと繋がっていけるような仕組みになり得るのではと思うんです。

すぐには難しいかもしれませんが、やはりそういうことをしないと本当に自治会もこれから難しいというところで、皆様方は本当に危機感を持っておられ

と思うのですが、是非うまい具合になるようにアイデアを出していただきたいと思います。

岡本会長

それではもう一方、ご意見を出してください。藤田さんいかがですか。

藤田委員

学校・家庭・地域と石川委員も言われたように、地域の行事に中学生になると出ないということについて、私は高千帆校区ですが、高千帆中学校に行く、あるいは私立の中学校に行かれる方もおられますね。だからその中で、やはり小学校の頃は子ども会行事として地域になじんだ色々なことをやっておりますけれども、中学校になった途端に「あの子はどうしているかな、全然見ないな」ということがあるわけで、そうした地域の行事を将来的に引き継ぐことが大切だと思います。そして先ほどもあったように、自治会の組織そのもの、世帯数はだんだんと推移するところですが、私のところをご存知のとおりどんどん増えているわけですけどね。そのような中で、学校・家庭・地域として教職員の方々が地域の行事などにも出なさいよと、協力しなさいよと、地域を意識するようなことを指導してもらいたいなというふうに思っております。それから、地域のことを学校の方からも、中学生になってもそういうことをですね、若い世代をどんどんつないでいただくということを指導していただきたいというふうに思っています。

和西社会教育課長

小学校から中学校で切れてしまうというお話が先ほどから出ていると思うのですが、市内でも竜王中学校区が「りゅうみんネット」という協議会ということで、中学校区での協育ネットの会議を盛んにされております。まずそこでされているのが、9年間の子どもの育ちを関係者、学校の先生も含めて、共有しているということです。「こういう子どもが竜王中学校区で9年間育っていけばいいな」という話し合いをされる場が竜王中学校区にはあって、今回、その家庭教育について素晴らしい試みがあったのですが、その協議会の場で子どもの家庭教育についてちょっと考えようということで、生活改善のスタンプカードではないですが、テレビは何時間までといったものを家でつけてみましようという試みをされています。学校主導ではなく、中学校区の集まりでそのようなことをやらどうかと地域の人が入ってそのような協議が進み、実際に3校で行われているという状況です。家庭に入るとか入らないとか、そういう難しいのはちょっと無理かなと思うのですが、まずは竜王中学校区にある家庭がどうあったらいいんだろうということを、地域の人と一緒に考えていくということがすでに竜

王中学校では行われているという状況です。

徐々にと言いますか、先ほどからアイデア等と申しておりますが、素晴らしいアイデアが生まれたなど逆に勉強させてもらったということでご紹介させていただきます。

岡本会長

ありがとうございました。では、森本さん、何かご発言願えますか。

森本委員

地域コーディネーターをしていますので、小学校の方では須恵小学校のコーディネーターをしています。そして人を呼ぶときですが、プリントを出すだけでは全然集まらないんですけれども、個別に声をかけてみると「いいよ」と気軽に参加していただけるので、やはり人を呼び込むには言葉でと言いますか、人と人がつながっていけば、うまくいくんじゃないかと思えますし、やはり「小学校から中学校でもう切れてしまうというのは良くないね」と、中学校のコーディネーターとも話していますので、お互いに中学校にも行ってみる、自分であれば小野田小学校にも行ってみる、やはり中学校区一緒なんだよという感覚でしていけばつながっていくと思えます。コミュニティスクールというのは、やはり小学校の間はやりやすいと思えます。小学校には地域の方が入りやすいんですけれども、中学校になると勉強は難しいからだめだし、中学生にもなれば自分のことは自分でできるので。それでも、今まで小学校の間、地域の人に助けてもらったり、いつもあいさつしたりして、「ああ、あのおじちゃんやおばちゃんたちに助けてもらった」という意識がある子どもたちは、中学校になったときに、今後は地域のお祭りとか敬老会とかでお手伝いに来て欲しいとお願いすると来てくれるんですね。「今度は私達が地域の人たちに恩返ししないといけない」という気持ちが育っているのではないかと思います。中学生は中学生なりに、今度は自分たちが地域に入ればいいんじゃないかと私は思うので、地域の人たちは中学校に入り込むことがないというのはちょっと違うのかなと思います。

石川委員

この間、中学生交流カローリング大会というものを開催させてもらったんですけれども、本当にそこに出場された中学生は穏やかで、他のお友達に対する気配りもできていましたし、すばらしい中学生でした。私は「皆さんは素晴らしい中学生で、これを各学校に持って帰って輪を広げてくださいね」と言いました。そういう素晴らしい中学生がいるというのは間違いなく事実ですから、その輪を広げて、そういう体制が多数になるような学校経営をしていただきたいなど

思います。本当に素晴らしい子どもたちでした。相手チームに対する気配りもできまじし和気藹々で、私が感心したのは、普通は男子と女子で、男子だけ女子だけでチームを作られるんですけれども、男子の中に女子が混じったり、女子の中に男子が混じったりといった交流がされていたことです。少なくとも、そういう素晴らしい中学生が存在しているということは間違いのない事実ですから、そこを大事にして広げていくべきではないかと思います。

岡本会長

はい。それでは松岡さん、ご発言をお願いします。

松岡委員

はい。今、スポーツ関係を担当しておりますけれども、一つお願いがあるのは、色んなグラウンドなり体育館なりですね、多くのスポーツ団体の方が予約をされます。そのような状況で地域の行事をやろうと思っても、早い者勝ちの世界になっているので、なかなかその場所が押さえられない。しかし、逆に早く押さえてやると、雨が降ったらできないとかですね、そういう予約制度は確かに必要なんでしょうけども、まあこういう地域の行事を優先していただければ非常に助かりますので、何とかならないかなと常日頃から思っております。

岡本会長

切実な願いでしょうね。公民館も今、多種多様な講座や活動をやっておられますから、私どもも自治協の運営会や自治会長の集まりをやるといったときに、なかなか難しいですね。公民館をそのくらい活用させていただいているというのは間違いのないと思うんです。それほど、今の公民館は行事が多いですね。

しかし、いまの松岡委員の発言は、確かにお困りであろうと思います。何とかうまくできるようにお願いしたいと思います。

それでは、嶋田委員、ご発言をお願いします。

嶋田委員

それでは、学校現場を代表して参加させていただいておりますが、今日の議題の中でもありましたように、学校としては公民館と協働してですね、やることが子どもたちの成長に非常に役立っておることを実感しています。公民館の今後の方向性としても今日示されておりますように、学校との連携を深めるということが最重要な課題となっておりますけれども、お互いがそのことを意識して取り組むことによって子どもたちが育ちますし、その子どもたちが地域を支えてくれるという好循環になるのではないかと思います。今後とも今の方向性で

是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

岡本会長

今日の運営審議会、色々なご発言をいただき感謝を申し上げたいと思ひます。時間となりますので議題を終わりとし、マイクを事務局にお返ししたいと思ひます。

臼井社会教育課主査

岡本会長、どうもありがとうございました。次回の開催予定でございますが、新年度はですね、1回目を9月に行いたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

本日は長時間にわたって、人口減少問題に至るまで、貴重なご意見をたくさんいただいたと思ひます。公民館運営のみならず、学校運営協議会等にも生かしてまいりたいと思ひます。以上をもちまして、平成27年度第2回公民館運営審議会を終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。